

代、全ての市民が大変ご苦勞されているという中で、やはり新年度予算においても負担増がないように、予算編成においてもぜひご努力をいただきたいと思います。このことをお願いして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○川又照雄議長 次、7番平山晶邦議員の発言を許します。7番平山晶邦議員。

〔7番 平山晶邦議員 登壇〕

○7番（平山晶邦議員） 平山晶邦です。通告に従いまして、一般質問を行います。

今、行政運営を語る上で大切なキーワードがあります。それは政策を実行する上でのスピードであります。総理も経済対策や補正予算を実行する上で強調するのはスピード感ある対応です。市行政にも、市民に対してスピード感ある対応が求められるのではないのでしょうか。

私は、12月1日から運用が始まったおくやみ窓口の対応などは、スピード感ある対応ではないかと評価しています。組織形態を年度途中であっても市民からの要望に応え、そして、遺族の方の負担を軽減する。また、コロナ禍の中で、さきの知事選、衆議院選の折、本市は人が集まるスーパーなどに移動期日前投票所を設置して、密集を予防して投票率アップを図る対応を行いました。これらのことは、市民の要望に応えたスピードある対応をさせていただいていると評価しています。これからもスピードを重視した本市行政運営を心がけていただきたいと思います。前段そのことを申し上げ、一般質問に入ります。

第1の質問は、総合体育館の整備に伴う運営管理についてのご所見をお伺いいたします。

私は以前の定例議会一般質問で、国体を迎えるに当たって、山吹運動公園市民体育館の改修整備が必要ではないかという質問を行いました。特にトイレ等について、市民から私に、体育館のトイレは床に水がたまっている状況を議員は知っているのかという厳しい指摘がありました。そこで現場を確認し、トイレがひどい状況で、もちろん車椅子などのバリアフリー化対応ができていない状況を指摘し、改修工事などが必要ではないかと質問をいたしました。その後、少しは改修を進めたようではありますが、現在の体育館が今の社会環境や時代にマッチしているとは思えない状況です。また、機能的にも市民から求められる施設とはなっていません。

今年度予算に新総合体育館の基本設計が計上された3月に、私は改めて、現在の体育館と運動公園の周りを見て新体育館の必要性を感じました。それゆえ、3月議会において、新総合体育館の基本設計が入っている本年度予算に賛成したのです。

また、9月30日に国の緊急事態宣言が明けた日曜日に、私は山吹運動公園の前を通りましたら、じょうづるはうすの前には若い子どもを連れた家族、そして、少年野球チームと保護者の方、野球場では市民が野球に講じていて、運動広場にはウォーキングをする市民がいました。私が想像する以上に多くの市民が山吹運動公園に集まっていることを実感いたしました。

そのような中で、1977年に建設した山吹運動公園市民体育館の建て替えの事業がスタートいたしました。40年以上たつと様々な面が時代に合わなくなっている状況は、先ほどの体育館のトイレの状況を申し上げたとおりです。

新総合体育館の概要が、議員全員協議会で示されて、私は、円形の建物のデザインを見て、私の想像を超えるデザインに魅了されました。体育館は四角の建物であるなどという私の古い概念

を吹き飛ばしてくれました。まるで宇宙船が地上にあるようなデザインは、きっとこれからの若い人たちに喜ばれるだろうという予感がしますし、高齢の方々には角ではなく丸い建物は、優しさあふれる建物という評価をいただけるのではないかと思います。私はそのように感じました。

建物の建設等のハード面は時間が解決いたしますが、私が今回質問いたしますのは、今後の運営等、ソフト面についてであります。

今回の新総合体育館は、ただ単に運動をする方々だけではなく、イベント、生涯学習、健康、子育て支援、文化活動、若者への未来教育、そして地域発信など、市民の皆様に関わる多くの拠点機能を求められるのではないのでしょうか。そして、もちろん市民の皆様をはじめ、多くの人々が日常的に集い、楽しむ施設にすることは当然であります。

また、この新たな施設は、新たなにぎわいを創造する施設、未来への夢を描く施設にしていかなければならないのだと思います。そのように考えますと、体育館は競技者に適した施設と言われますが、そのような狭義の解釈より、競技者に適することはもちろんであります。2,000席の観客席を造るようでありますので、観戦者や観客者にも適した広義の解釈の多目的施設であるアリーナを建設するようと思います。

そのような中で一番重要で大切なのは、今後の運営と組織の在り方であります。私は前段で申し上げた施設にさせていただきたいという強い思いがありますので、ぜひとも組織を含めた新たな運営管理方法を取っていかねばならないと思いますが、今後の運営管理のご所見をお伺いいたします。

第2の質問として、出資する第3セクターの今後の在り方についてご所見をお伺いいたします。

現在の第3セクターは1991年に設立した里美ふるさと振興公社、1994年に設立した水府振興公社、2016年に設立した常陸太田産業振興株式会社の3事業者があります。各種事業者の定款の目的を見ますと、里美ふるさと振興公社は、里美地区の基幹産業である農林業を主軸に、地域おこしの先導的な役割を担うとともに、常陸太田市所有の各種施設の管理運営等に関する事業を行い、里美地区を地域内外にPRし、地域の住民福祉の向上に貢献することを目的とするとうたっています。水府振興公社の定款の目的は、物産センター、竜神ふるさと村観光物産館、ふるさとセンター竜神等の施設の運営管理及び経営となっています。常陸太田産業振興株式会社の目的は、常陸太田市の農林畜産業、水産業、商工業及び観光交流等の振興と、公共施設の維持管理運営等に関する受託と、他各種事業をすることとなっています。

設立当初は、定款に掲げられた目的に意義があると思いますが、今は常陸太田市の公共施設を指定管理者として受け、その運営に当たっていることが事業の柱になっていると思います。金砂郷地区の公共施設の運営は、現在JAが行っておりますが、今後は未知数の点が多々あります。

合併した常陸太田市になって17年近くになりますが、その間、社会環境は物すごいスピードで動いています。キャッシュレス時代が到来していますし、今後、DX、つまりデジタルを効果的に活用し、提供できるよう組織の活動、内容、仕組みを戦略的、構造的に再構築していくデジタルトランスフォーメーションの時代を迎えようとしている中では、市が出資する第3セクターの今後の在り方も必然的に変わっていかねばならないと思います。

そこで、市が出資する第3セクターの今後の在り方についてご所見をお伺いいたします。

以上で私の1回目の質問といたします。

○川又照雄議長 答弁を求めます。教育長。

〔石川八千代教育長 登壇〕

○石川八千代教育長 総合体育館整備に伴う運営管理についてのご質問にお答えいたします。

新総合体育館はスポーツ施設としての活用はもとより、市民の生涯学習活動、健康づくり、子育て支援や教育活動など、市民の様々なライフステージに合わせて幅広く利用していただけるよう、多くの観覧席を備えたいわゆるアリーナを整備し、本市におけるスポーツ交流の拠点施設とするものでございます。

そのため、ハード面での施設の環境整備や維持管理はもとより、管理運営面については、市民が気軽にスポーツやレクリエーションを楽しみながら健康増進を図れるよう新総合体育館の整備、機能を最大限に発揮して、利用者にとって魅力あるスポーツプログラムの提供、また、子どもたちがトップレベルのバスケットボールやバレーボール等を観戦することで、夢を育む場となるよう大会誘致のプロデュース等、いわゆるソフト面としての環境や場の創出も非常に重要であると考えているところであります。

そこで、これらソフト面に対応するため、他市の先行事例を調査するなどして、様々な角度から、施設の設計、建設と並行して、管理運営の在り方について検討していく必要があると考えております。あわせて、指定管理制度の導入についても検討し、開館後のスムーズな運営につなげていきたいと考えております。

また、山吹運動公園を含め、市内にある他のスポーツ施設につきましても、それぞれの施設の役割と特色を持たせた施設となるよう、今後、整備運営等について検討してまいりたいと考えております。

○川又照雄議長 総務部長。

〔綿引誠二総務部長 登壇〕

○綿引誠二総務部長 市が出資する第3セクターの今後の在り方についての所見についてお答えいたします。

市が出資する第3セクターでございますが、ただいま議員からもご発言にありましたが、改めまして、それぞれの第3セクターの設立目的に沿った主な事業内容について申し上げます。

一般財団法人里美ふるさと振興公社は、里美カントリー牧場や里美温泉保養施設など、6つの指定管理施設の管理運営を主軸といたしまして、里美地区の地域振興に努めており、令和2年5月から、農畜産物等加工施設で本市産の生乳を使用したチーズの製造、商品化や販路拡大を、本年4月からは、里美カントリー牧場にオープンしましたオートキャンプ場の管理を担うなど、新たな事業を展開しております。

株式会社水府振興公社は、竜神大吊橋や竜の里公園など、5つの指定管理施設の管理運営を主軸といたしまして、竜神峡の雄大な自然の下で、関係団体等と連携してのカヌーやバンジージャンプ、キャンプ場などの豊富な体験メニューを通じて水府地区の地域振興に努めているところで

ございます。

常陸太田産業振興株式会社は、道の駅ひたちおおたの管理運営を主軸といたしまして、地元食材を使用したレストランの運営や、地元農産物の販路拡大に取り組むなど、本市の基幹産業でございまず農林畜産業の促進と交流人口の拡大に向けた運営に努めているところでございます。

いずれの第3セクターも、地域の振興と活性化や地域資源を生かした事業を展開しながら、地域雇用の創出の場として設立当初から重要な役割を担ってきておりますが、現在の社会環境は、各第3セクターが設立された当時とは、議員ご発言のとおり大きく変化してございます。

なお、本市においては、少子・高齢化や人口減少が進んでおりまして、今後は、労働力人口の減少に伴う担い手不足なども懸念されている状況にございます。

さらに世界規模で拡大しました新型コロナウイルス感染症は、市民の社会生活に大きな影響を及ぼしたのみならず、外出自粛や規制による交流人口の急減といった変化に起因いたしまして、本市の指定管理施設を中心とした第3セクターの経営も打撃を受けておりまして、コロナ禍におけますそれぞれの第3セクターの経営状況につきましては、毎年お配りさせていただきます経営状況を説明する書類にてご報告させていただいているところでございます。

また、近年におきましては、キャッシュレスの拡大など社会経済のデジタル化が急速に進み、国が進めておりますデジタルトランスフォーメーションにおきましては、消費者のニーズや行動の多様化といった社会環境の激しい変化に対応するため、デジタル技術を活用した事業の推進について提唱されているところでございます。

このような社会情勢の下、今後の第3セクターの運営におきましても、これら社会環境の変化に的確に対応していくことが求められております。

さらに第3セクターの果たす役割についても、現在のそれぞれの地域単位での振興目的から、大きく市全体を見据えた事業運営を検討していくことも必要と考えているところでございます。

しかしながら、市町村合併前の地域の特性や、設立の経緯及び地域雇用などの諸課題がございますことから、これらに配慮しつつ、市が出資する第3セクターが将来にわたり持続可能な運営を維持しながら、質の高い市民サービスを提供していくためにも、今後の第3セクターの在り方について研究してまいりたいと考えております。

○川又照雄議長 平山議員。

〔7番 平山晶邦議員 質問者席へ〕

○7番（平山晶邦議員） ご答弁をいただき、ありがとうございました。

2回目の質問は、要望を申し上げておきます。

1問目の新総合体育館整備に伴う運営管理については、ご答弁の内容を理解いたしました。新総合体育館の運営管理費は、固定費として毎年かかってまいります。

それゆえ、総合体育館の運営管理を考える上で、同時にと言ったらよろしいんでしょうが、教育予算事業でのスクラップ・アンド・ビルドを徹底して、お考えになっていただきたいと思えます。要望を申し上げておきます。

2問目の市が出資する第3セクターの今後の在り方については、ご答弁を理解いたしました。

最後に、私の意見を言って終わりにしたいんですが、私の好きな言葉に脱皮できない蛇は死ぬというものがあります。どうか時代や社会環境の変化に対応する組織、運営方法をつくっていただきたい。今、持続可能などよく言いますが、それだけ今後の社会の在り方は難しくなっていると考えます。これからも持続可能な常陸太田市の行政であっていただきたいと心から願っております。よろしく願いをいたします。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○川又照雄議長 以上で一般質問を終結いたします。

---

○川又照雄議長 以上で本日の議事は議了いたしました。

次回は明日、定刻より本会議を開きます。

本日はこれにて散会いたします。

午前11時16分散会